

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300179		
法人名	社会福祉法人 清幸会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム まつばら荘		
所在地	栃木県那須塩原市黒磯字白崖647-4		
自己評価作成日	平成25年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年8月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成25年 7月 24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な場所に立地し自然環境に恵まれています 森の色や鳥のさえずり、陽射しに季節や時間の移ろいを感じる事ができ、居ながらにして森林浴気分に入れます 個々の残存機能やその時の体調を考慮して生活支援を行っています、炊事や後片づけをすることにより知らず知らずのうちに機能訓練が出来ています また、役割を持つことにより生活することに自信ができたせいか入居当初より生き生きと生活されています 肺炎と骨折の予防には細心の注意を払っており口腔ケアの徹底と体調の変化の早期対応、転倒防止に努めています 職員に関しては「まつばら荘実行5か条」を掲げ目配り手配り思いやり・整理整頓清潔清掃を実行しています 敷地周辺が近所の方の散歩コースになっており自然な形で地域交流がされています

小規模多機能型居宅介護事業所を併設したグループホームで、開設して1年が経ったところである。職員はグループホームケアがはじめてという状態から手探りで取り組みを重ねてきた。その一つが、入居者が参加する食事作りである。現在はみそ汁と、ご飯、おかず1品をグループホームで手作りし、食材や他の副菜は併設事業所の厨房から提供されている。調理をすることで話がはずみ入居者同士の関係にも良い影響が生まれており、役割を持つことで表情も生き生きしてきている。今後、食材の買い物なども活動に取り入れたいとしている。現在は、平均介護度も低く、いろいろな活動を積極的に組み込むことで、認知症状の緩和や進行の遅延、生活の質の向上の可能性が大きいと思われるので、外出支援や趣味の活動について入居者一人ひとりの要望・意向に合わせ工夫して、今後より一層積極的に取り組むことを期待したい。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所として作成した理念を玄関に掲示し共有化を図りながら、全職員がその理念に基づいたサービスを提供できるよう心がけています。	着実なケアを実践するために、「実行五カ条」を掲げ、職員のサービス向上の足がかりとしている。その一つの「科学的介護」の実践では、肺炎等の感染症の予防や咀嚼・嚥下能力の向上につながるという根拠に基づいて、口腔ケアに力を入れている。	職員の介護力を高めるための「実行五カ条」に止まらず、地域密着型介護サービス事業所としての、地域とのつながり、地域への貢献を内容に含めた方針等を今後掲げることも検討していただきたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に運営推進会議に参加していただき交流に努めております。今後は自治会へも加入し、地域との繋がりをよりいっそう深められるよう努力してまいります。	自治会への加入を模索しているが、自治会側の準備が整わず、加入には至っていない。8月に夏祭りを計画しており、近隣住民に案内を出して、参加を呼び掛けることにしている。周辺は近隣住民の散歩コースになっていて、途中立ち寄ってくれる人もおり、事業所の認知が広まりつつある。	事業所の近くに小学校があるので、今後は子ども達との交流の機会を設けるための働きかけなども進めていただきたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の方の様子や支援方法などを説明し、理解促進を図っています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催し、実績や毎月の行事などの活動内容を報告しています。会議で出た意見や提案などについては真摯に受け止め、サービス向上に繋がるようにしています。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同の運営推進会議を開催している。メンバーは自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員、家族代表等で、事業所の運営の説明や福祉制度の質疑応答が多い。地元関係者からは、事業所ができて、周辺の交通量が増えたので、事故等に注意してほしいとの意見が出されている。	会議に出された交通事故への注意喚起はもったもたことなので、市、警察などとも相談して、特に信号機のない交差点について、何らかの対策が取られるよう、働きかけることも必要と思われる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から運営に関する不明な点や困難ケースなど、市や地域包括支援センターに相談し助言をいただいたりと関係性を強化しています。	事業所を開設して1年、この間、様々な内容で市や地域包括支援センター、社協のあすてらす(日常生活自立支援事業)と協力して運営を進めてきている。介護保険課のみならず、社会福祉課や隣接市などとの連携により、入居者の受け入れが叶った事例もある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを活用し、職員への周知徹底を図れるよう勉強会を行っています。玄関の施錠は夜間のみで日中は自由に出入りができるようになっております。	身体拘束について職員間に認識のずれが見られたこともあり、法人が新しく作成した「介護技術マニュアル」の身体拘束防止、虐待防止のテキストを用いて、勉強会を実施している。夜間、ベッド柵を使わずにベッドからの転落、転倒防止を図るために、職員で話し合っ、こまめな巡視やベッドの下に保護用の布団を敷き込む工夫を実施している例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待防止委員会を設置し、管理者が委員となり定期的に研修の場を設け、率先して虐待防止に取り組んでいます。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あすてらすをご利用されている入居者の方がおり、職員間で勉強会を開き理解に努めております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を設け、ご理解いただけるまで説明を行っております。契約後も不明な点が出てきたときには気兼ねなく質問ができるよう配慮しております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が毎朝、利用者の朝食時を利用してお一人お一人に挨拶して回り、体調の事や困り事はないか伺っています。そこで得た情報を職員に伝え、個々に対応、改善を行い運営に反映させています。	家族からは運営推進会議や普段の家族の事業所訪問時に話を聞くようにしている。積極的な意見や要望は余りないが、ある家族が日差しが居室に入って室温が上がることを防ぐために、日除けをしたいと申し出たことをきっかけに、事業所で全ての部屋の窓によしずを設置することを決めた事例がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り(朝、夕)に管理者も立ち会ってその際、意見や提案も聞いています。即答できる内容なら即日に回答し反映させています。普段から現状を知るため現場に出向き、職員が声を掛けられる機会を多く設けています。	開設して以来、職員からは様々な要望や提案が出ており、それらを取り入れながら、サービスの向上に取り組んできた。その一つが、グループホームのキッチンで入居者と共に調理をする、という取り組みである。また、グリーンカーテンの設置や、夜間記録を記入する時電気スタンドの利用による、光熱費の削減への取り組みも職員との話し合いで決めたことである。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は管理者の個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、管理者は職員個々のそれらを把握し代表者に伝えて反映されるよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は特に人材育成に力を入れており研修は年間計画を立てて受講させています。また事業所に赴き、管理者や職員個々のケアの実際と力量を把握しています。法人の介護技術マニュアルがありそれに基づき統一したケアができるようトレーニングしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近では那須町のグループホームの見学とレク体験の機会を得、感想文や反省点のやり取りを行い有意義でした。管理者が地域密着型連絡協議会の会長を引き受けるなど積極的に活動に参加しサービス向上につなげています		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前に施設見学や希望者には体験利用をして頂き不安を軽減してもらいます。また、家族や本人からできるだけ多くの情報を得ておき現場職員には必要に応じて対応するように指示しておきます。利用初日は実調や契約等ですです顔馴染みになっている管理者やケアマネが職員に加え対応しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前に家族の話をじっくり聞きます。家族が話しやすいように世間話を交え和んだ雰囲気づくりをしています。困りごとや不安、要望について管理者、ケアマネがわかりやすく親身に相談に応じ約束は必ず守り、信頼関係を築くよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入するにあたり、管理者、ケアマネともに協力し本人と家族が今何を必要としているか察し、話し合い、検討し幅広い視点から、本人と家族が求めているサービス提供への対応をしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「介護」に加え「生活支援」が重要な業務であることを意識しています。本人ができる家事はお願いして急かさず見守り待つなど職員も利用者からの優しさや元気な姿にふれ合い、生きがいを見い出し、支えあっていることを自覚しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域密着型としていつでも家族が気軽に来荘できる環境づくりに努めており、早朝、夜勤帰りの息子様が本人の朝食見守りに立ち寄りなどしています。随時家族と連絡を取り合い相談して本人と家族の意見のバランスを取りながら物ごとを進めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体調を崩した時には本人の馴染みの先生に連絡すると往診に来てくれるという利用者がいます。小規模多機能型を併設しているので、その利用者の中に馴染みの方がいて交流を継続している方がいます。入居以前からかかっていたマッサージの先生に訪問マッサージをしてもらえるよう支援をしました。	入居したあとも自宅に荷物を取りに行くことを支援したり、買い物が出てらに自宅付近をドライブして思い出を共有したり、親戚の人がふかし芋を届けてくれることがあったときには歓迎したりして、家族や親戚との関係が途切れないように支援している。一人ひとりの生活の延長にグループホームでの生活があることを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間には体調不良者以外は皆様ホールに集まって頂いています。誰かが揃わないと皆で心配をするという関係ができています。また炊事も分担作業がスムーズにできるよう職員が声掛けや体調チェックなどの支援をしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関わりを大切にしながら、必要に応じてご本人、ご家族の今後について相談や支援を行えるよう取り組んでおります。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や普段の様子、またご家族とのやりとりの中からご本人主体の生活が送れるよう心がけています。	本人との会話や入居者同士の会話から、本人の要望や意向を汲み取るようにしている。介護リーダーに対して心配事や要望を話す入居者が多く、ゆっくり話を聞いて安心感を持ってもらうようにしている。また、一人ひとりの得意なことや役割を探し、張り合いのある、落ち着いた生活をしてもらうように心掛けている。	職員は特養の勤務経験はあるが、グループホームケアは初めてということで、入居者一人ひとりとゆっくり向き合うことの出来る環境に戸惑いつつもその良さを実感している。今後も入居者個々の意向や要望を引き出し、それを実現できる支援に努めて欲しい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人やご家族から生活歴の聞き取りを行ったり、これまで関わっていた介護保険事業所から情報を提供してもらっています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の体調確認とご本人の意向により、その日の過ごし方を職員間で相談し合っています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認しながら、必要があれば医療との連携をとりながら担当者間で話し合い、介護計画を作成しています。	介護計画は一人ひとりの生活歴や好きなこと、役割を反映した生活の実現を目指したものにしたいと考えている。こまめにサービス担当者会議を実施している時間がないため、個別に本人の意向や家族、職員の意見を聞き、通院介助で直接得られた医師からの助言等を活かしながら計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌や看護日誌、連絡ノートに日々の様子や気づき等を記入し、出勤時に確認することで情報の共有を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、臨機応変に通院や買い物支援など柔軟に対応しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々にボランティアを依頼し、民謡や手打ちそば、吹奏楽による音楽鑑賞等、生活の中に楽しみが持てるよう支援しております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご本人やご家族の希望に添いながら、関係性を重視し、なるべく長年診てもらっていたかかりつけ医の診察を受けられるよう配慮しています。	通院は基本的に家族介助になっているが、独居、家族が高齢、病弱、遠方に住んでいる等、家族の介助が困難な入居者には職員が付き添っている。入居者のほとんどが入居前からのかかりつけ医を受診している。通院介助の必要度が高いので、日中の職員配置数を増やして対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化がみられた時にはすぐに看護師に報告し、対応法や受診など適切な指示を仰いでいます。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の方が入院された際には、こまめに面会に行き状態を把握するとともに、MSWやご家族と連絡を取り合い早期に退院できるよう心がけています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針についてはこれからご家族の方々と協議を重ねていく予定です。	重度化や終末期について、契約時に家族との話し合いはしていないが、家族は体調不良や医療依存が高くなったら入院し、終末は病院でと考えている。開設して日が浅く、まだ職員間での話し合いができていないので、現状では看取りはできないが、高齢の入居者もいるので、今後職員間で話し合いたいと考えている。	現段階では事業所で重度化や終末期にすぐには対応できなくても、勉強会や研修は職員のスキルアップにつながると考えられるので、今後ぜひ実現していただきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、職員全員が把握できるようにすると共に、定期的に普通救命講習の受講も促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の自主避難訓練と年2回の消防署員を招いての総合避難訓練を行っています。スプリンクラーや自家発電機を設置しています。	居室の窓は、緊急時に入居者が避難しやすいよう全て掃き出し窓になっている。消防署員を招いての避難訓練では、常に避難通路を確保しておくようとの助言があったため、緑のカーテンや物干し、テレビの位置をずらして室内と外の通路を確保した。非常用備蓄については、48時間分の飲料水の用意とその保管場所等を検討している。	避難訓練に地域の方々に参加していただき、避難時の入居者の見守り等に協力をお願いできないか、運営推進会議に自治会長も参加しているので相談し実現を目指していただきたい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ高さかやや下の目線の位置で話しかけるようにしています 介護は「させて頂いている」という気持ちで。言葉使いは必ず「です・ます」をつけ、赤ちゃん言葉は絶対禁止 入浴は一人ずつ、排泄介助は丁寧迅速に行っています。	職員は、入居者が人生の先輩であることを忘れず敬語を使い、話をよく聞くことを心掛けているが、入居者によっては方言の方がわかりやすい方もいるので、臨機応変に使い分けている。居室のドアは開放したままにせず、職員が入室する時は必ずノックをしている。職員間の申し送りの時には入居者の話が本人たちの耳に入らないよう気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮しがちな人、内向的な人には行動や表情から訴えや思いが汲めるように職員に観察力を養う努力をするよう促しています 1人1人が思いを表現できるよう信頼関係の構築と環境、雰囲気づくりをする努力をしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こまめな声かけを行い本人の意向を確かめながら過干渉、ほったらかしにならないようにしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な衣類が着用できるようにしています 外出の時は帽子やアクセサリーにも気を使っています 普段でも本人が着ている服や髪型を職員は褒めます マニキュアの希望あれば女性職員が楽しい会話をしながら塗る支援をしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない範囲で調理や配膳、後かたづけを職員とともに行っています IH、電子レンジも使いにさせるようになった利用者もいます ホールのキッチンで炊く炊きたてのご飯は何よりのご馳走との感想も聞かれます。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で調理された食事をグループホームに運んで提供している。おやつ作りを楽しんでいる入居者の様子を見た職員からの提案で、入居者の有志が味噌汁作りやご飯炊きから始め、今は厨房にある食材を使って何を作るかを決め、昼食のおかずを作っている。調理をすることで話がはずみ入居者同士の関係にもプラス効果が生まれ、役割を持つことで表情も生き生きしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事、水分の摂取量を記録、把握し健康管理に役立てています。水分の必要量が摂取しにくい利用者にはゼリーにしたり好物の果物に代替えして提供しています。食事は咀嚼、嚥下の状態に合わせ適切な形状で提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じて義歯洗浄、歯磨き、うがいの声掛け、誘導、介助をしています。口腔ケアに使用する歯ブラシ、コップも每晚消毒、乾燥しています。口腔内の状態も確認しています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便の記録をつけています。居室9部屋に対して個室トイレが4か所あり、トイレは各居室から近くて便利です。オムツをしている人でも尿便の訴えがあればトイレで排泄する援助をしています。	ほとんどの入居者が排泄の自立をしており、一人でトイレに行っている。リハビリパンツやおむつを使用している入居者には、排泄記録を利用してパターンを把握した職員が声をかけ、トイレでの排泄の誘導を心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけ個々のパターンを把握しています。記録には本人が何日排便がなかったかが一目でわかるようにしてあります。適度に体を動かす、水分を多く摂るなど日常生活に気を付けています。自然排便が困難な方には医師に相談し処方された下剤を適宜使用しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴予定日は受診や外出予定を考慮して本人と相談して決めています。それによって利用者はその日を楽しみにし、それぞれ計画的に過ごされるので入浴時間はゆっくり自分の時間として楽しんでいます。変わり風呂も季節ごとに提供しています。	入浴は週2回が基本で、一人ずつ職員一人が介助している。ゆっくり時間をとって、服の着脱等自分でできることは自分でやってもらっている。入浴したくない入居者にはこまめに声をかけ入浴を促している。季節によってヨモギ湯、菖蒲湯、ゆず湯にして季節を楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室は夜眠るだけのためのものでなく昼間でも自信のプライベートスペースとして休息やくつろぎの場所として活用されています。室温や寝具の調整、照明など個々に合わせて配慮し、安全かつ安心してお休み頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診介助を行っている事により職員が直接医師や薬剤師から薬の情報を聞くことができます。また、個人ケースに薬の説明書をファイルしておくのでいつでも確認することが出来ます。症状の変化については早期発見と対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ショッピングの好きな方、散歩の好きな方には外出やドライブの機会を設け、読み書きの好きな方には静かな環境の設定、料理の得意な方や籠作りの特技を持っている方には材料や道具を揃える支援と見守り、時に職員が教えてもらったりしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例えば、職員が業務の上で買い物等に出掛ける時、支障がなければ「一緒にいきませんか」と声を掛けたりして希望あれば一緒に出かけることがたびたびあります。最近では地元お寺の火祭り見物を希望され実現しています。家族ぐるみの送迎で親族の食事会に出かけた方がいます。	季節毎の花や紅葉を見に行くドライブの他、職員の買い出しに同行したり、通院の帰りに買い物をしたり、住んでいた家の周りを見に行ったりして、入居者の体力や希望に合わせた外出支援をしている。また、散歩や事業所の庭で育てている花や野菜の様子を見に出たりして、日常的に屋外に出て楽しんでいる入居者もいる。	現在は、入居者の介護度も低く、いろいろな活動を取り入れる可能性が大きい。外出支援もその一環として、一人ひとりの要望・意向に合わせ、今後も工夫して取り組むことを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は家族、本人の希望もあり管理者が金庫に保管させて頂いています。使う当日にお渡しし、職員の見守りで買い物支援をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りは自由にして頂いています。職員は買い物に同行し、本人の気に入った素敵な便箋や切手を買う支援や投函のお手伝いをしています。本人宛の小包が届いた際は送り主へ届いた連絡の支援をしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が新しいので現在はシンプルに新しさを楽しむ空間を心掛けています。壁や建具は落ち着いた配色になっています。四季の植物や家族からの鉢植えなどを配置しています。何よりも整理整頓を心掛けています。	小規模多機能型居宅介護事業所を併設した建物は、居室等が中庭を取り囲む設計となっている。建物内の色は白とこげ茶にまとめられ落ち着いた雰囲気、天井が高く、窓が大きいので居間は明るく、清掃が行き届いている。居間とは別の場所に椅子とテーブルを設置したコーナーがあり、家族との談話などに利用されている。窓の外に緑のカーテンと夏野菜や稲のプランターがあり、居間には入居者と職員で制作中の季節を題材とした貼り絵や七夕飾りが置いてある。建物周辺の林から鳥の声が聞こえている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に食事コーナー、テレビコーナー、リラクゼーションコーナー、キッチンコーナー、ドクターフィッシュコーナーなどのスペースがあります。また気の合った利用者同士で部屋を歩き来し、それらの場所で思い思いに過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた家具や本人の気に入った雑貨などを活かしてそれぞれその人らしい居室になっています。	居室の入り口には個人名を掲げず、地元馴染みの地名を付けて部屋を区別している。居室には電動ベッド、洗面台、エアコン、加湿器付空気清浄機、カーテン、床頭台が事業所によって用意されている。入居者はテレビ、整理タンス、仏壇、本、自作の額等好みの物を持ち込んで部屋作りをしている。エアコンのリモコンは操作の間違いを防ぐため職員が管理している。清掃は毎日職員と一緒に、寝具は週1回洗濯している。窓には暑さよけのよしずがあり、暑い日には広げられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンには車椅子のかたでも炊事の参加ができる流し台があります 浴室は1人用浴槽で使いやすく大きさ深さともちょうど良いです 階段、段差なくすべてバリアフリーです		